

# 令和元年 飯田市教育委員会 5月定例会会議録

---

令和元年 5月16日(木) 午後3時00分開会

## 【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	小澤 由美子

## 【出席職員】

教育次長	今村 和男
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	高坂 徹
生涯学習・スポーツ課長	北澤 俊規
文化財担当課長	馬場 保之
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館長	棚田 昭彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長補佐	槇村 洋介
歴史研究所総務係長	佐々木 美鈴
学校教育課長補佐	滝沢 拓洋

---

## 日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） それでは、改めましてこんにちは。

ただいまより、令和元年飯田市教育委員会5月定例会をいたしたいと思います。

---

## 日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程の第2 会期の決定。

会期は、本日1日のみとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

---

## 日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3 会議録署名委員の指名。

今月の会議録署名委員は、北澤正光教育長職務代理者をお願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（代田昭久） よろしくお願ひいたします

---

## 日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4 会議録の承認。

臨時会及び4月の定例会の会議録のほう修正等あればですが、いかがでしょうか。

（承認の意思確認）

○教育長（代田昭久） はい、それでは、承認ということでよろしくお願ひいたします。

---

## 日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5 教育長報告事項。

A4の裏表で書類を用意させていただきましたので、これに沿いながら、今日4点お話をさせていただきたいというふうに思います。

まず、1点目ですけれども、4月の19日から北澤教育長職務代理者と学校訪問をさせていただいております。今週、終わったところで25校を終え残り3校ということで、ほぼ全部回るような形になりました。

この学校訪問は4年前から始めているわけですが、学校経営に関する今年度の校長の経営方針を聞きながら、相談に応じたり、また、時にはアドバイスをしたり、また、半分はすべてのクラスを回って子どもたちの様子を見ると。また、新しく来た先生や、そんな授

業の中の様子を見るというそんな機会にしています。

改めて学校訪問をして感じるの、それぞれの学校がそれぞれの課題を抱えているなあというふうには思います。小さい学校だから課題が少ないというわけではなくて、小さい学校なりのやはり困難な課題もありますし、また、さまざまな困難に立ち向かう中で、先生たちが本当に一生懸命頑張っていたというふうに感じます。

そんな中で、教育委員会として、また、教育長としてもしっかりと支援・サポートしていきたいなあ、そんなことを認識するいい機会であるかなあというふうに思います。

また、前回の校長会の中で、北澤教育長職務代理者のほうから校長先生方に「もっとマネジメントをしながら、教頭先生や先生方が伸びるようなそんな育成をしていってほしい」という話をされたんですけども、それを受けて、もう早速、校長面談の中で、学校経営方針については教頭がプレゼンテーションするという学校も幾つかあって、要は、校長と教育長だけの面談ではなくて、そこに教頭が入りながら学校経営について校長と交えて話し合う、そんな場も幾つかできてきたなあというのが今回うれしい、新しい変化かなあというふうに思っています。

そういった意識で各学校の中で、職場で働く先生方や、また、次の管理職を担う人材がはぐくまれていくといいなあとそんなふうに感じたところでもあります。

また、各クラス全部回って見ているわけですけども、クラスの雰囲気や授業の雰囲気、それは生徒と先生との関係、また、生徒同士の関係というのは非常に落ち着いているなあというのが総じた感想です。何かクラスが非常に成立していなかったりとか、出歩いちゃったりとか、そういうクラスというのは1つもなくて、その意味では本当に今、飯田市の学校の授業の様子というのは良い状態だなあというふうにつくづく思います。

しかも、それが年度末で仕上がりの状況じゃなくて、スタートの時点でこういったスタートが切れているのは、非常に今、良い環境で学習が行われているなあ、本当に現場の先生方のご努力ご尽力を感じる場所でもあります。

ただ、その一方で、学校間の授業力の格差みたいなものは感じざるを得ないなあというふうに感じます。要するに、今、飯田市が注力をしている「学力向上・結プラン」「ねらい、めりはり、見とどけ」こういった三観点を大事にしましょうということが本当に全クラス徹底した学校もあれば、なかなか授業の終わりを見ても「どういう授業をやったんだろうなあ」と、わかりにくい、目当てのはっきりしない、また、見届けもできていないような授業を感じる時もあります。

こういった学校間の格差、格差というか差異ですね。違いというのはやっぱり埋めていき

たいし、飯田市全体として学力向上を目指す中では、こういった本当に凡事、基礎的なことだと思いますが徹底していききたいなあというふうには思いますが、「徹底していききたいなあ」という願いだけではうまくいかないので、その知恵を絞るとともに、これからまた専門幹の学校訪問や、また、南信教育事務所の指導主事のほうもまた教育委員会の訪問等もあるので、そういった連携も図りながらですね、ぜひこういった学校の差というのをどんどんと高みに合わせられるようなそんなことも課題として感じています。

いずれにしろ今週、来週ですべての学校訪問終わりますけれども、いいスタートを切りながらしっかりとサポートをしていきたいと思っています。

2番目は、第33回の「飯田やまびこマーチ」についてです。こちらはですね、今日の定例会の協議事項にもありますので、ぜひ皆さんご意見があればご協力いただければなというふうに思います。

その前提で少し私の感想ですけれども、今年度は天候にもまた恵まれ、一大行事を無事大きなけががなくできたというのは、本当に市民の皆さんの力やスタッフの陰の努力があったからこそかなあというふうに思っています。

結果速報として書いてありますけれども、PTAコースや焼き肉コースや大平コース、今、教育委員会が力を入れているコースに関しては、昨年度比すべて上回ってきたので、そういった意味では、力を入れた企画が充実してきた証拠かなあというふうに思っています。

私自身も1日目はPTAコース、2日目は10キロコース歩きました。特に10キロコースはいろんな地方から来ていただくので、大体抜かれてしまうことが多いんですが、抜かれてしまうと「どちらかから来ました」というような会話をするんですけども、そんなときに、やはり飯田のこの「やまびこマーチ」の良さというのを共通して言っていただけなのは「おもてなし」、「市民の皆さんのおもてなしがとても良いんです」というふうに言っただけです。こんなところは本当に強みとして自覚しながら感謝しなきゃいけないなあと改めて思うわけですけれども。

今年度中に天龍峡大橋が開通する見込みであります。来年度に関しては、その天龍峡大橋の開通を見据えたコースも今準備をしているところで、今現状の「やまびこマーチ」に満足するんじゃなくて、さらにもう一段階上の天龍峡を利活用した、そんな新構想の準備しながらですね、より市民の皆さんや、また、市外から来た皆さんにも喜んでもらえる行事にしていききたいなとそんなふうに考えています。

3番目は、第11回を迎えた「オーケストラと友に音楽祭」についてです。こちらのほうも今日の議論でありますので、ぜひ感想やご協議をお願いしたいんですけども、こちらの

ほうもゴールデンウィーク大変忙しい中、多くの皆様のご協力いただき無事できたことに感謝申し上げたいというふうに思います。

速報値としての数値を書きましたけれども、こちらのほうも昨年度比から比べると名曲コンサートやクリニックコンサート、クリニックの受講者、小学生の音楽ひろば、それぞれの力を入れている企画に多くの人たちが参加していただいて、毎年充実しているなあというふうに感じます。

その中で、特に中高生の皆さんへのクリニックというのは、例年、充実しているなあというふうに思います。円光寺先生から、今年度から名古屋フィルの正指揮者になった川瀬賢太郎さんのほうの指揮者になったわけですが、比較をするわけではないんですが、やはり川瀬先生の持っているこの若さというのが受講生に乗り移って、また新しい風を吹き込んでいただいているなあというふうに思っています。

私個人としてはですね、「どんな思いで受講生に指導しているんですか」というような質問を懇親会のときにさせていただいたらですね、「中学生と思って指導はしていないんだ」と、「名フィルを指導するのと同じように指揮することで、子どもたちの伸び代をもっと伸びていくし、その能力を引き出すのが私の仕事なので、それはプロと思ってやっています」というような返答が返ってきました。

やっぱりうれしかったのは、「飯田の子どもたちって私が想像していたように力がある子どもが多いなあ」と、「率直な感想です」というふうに言っていただいて「まだまだ伸び代があるよ」と言っていただきました。川瀬賢太郎さんとのこのご縁を大事にしながら、飯田市の子どもたちのこの音楽の力とか感性が伸びていくといいなとそんなふうに思っています。後ほどの協議事項でよろしくお願いします。

4つ目として、先週ですね、関東地区の教育長会議というものがありませんでしたので、少し報告をさせていただきます。

教育長になるとなかなか研修という機会は少ないわけですが、年に2回、この関東というものと、来週になりますが、全国の教育長が集まる研修会というのがあるって、この2回とも「いい研修の機会だなあ」と、むしろ「いい研修の機会にしなければいけないなあ」というふうに思いながらいつも向かっているわけですが、その中で、今回は関東甲信越だったんですが、松本で行われたということで、松本の菅谷市長のほうの講演を聞きました。

医療出身者で、チェルノブイリとか本当に世界的に活躍されている医療従事者ということば聞いたんですが、どんな市政経営をしているのかというのは初めての機会です、本当に医療

出身者だからこそ見える視点という、それは行政だけではなく教育の視点というのが学ぶことができ、非常に勉強になったなあというふうに思います。

ですので、幾つか印象に残った言葉をここで教示させていただきたいんですけども、1つは、「初期教育の重要性」というのはすごく言っていて、「教育の現場では、最初にだれに教わっていくか、どんな環境でその指導を受けるかというのはすごく大事にされている」と。

「根本原理を教え込まれば応用はきくから、その初期教育の初期指導というのを重要にしているんだけど、これは教育現場でも全く同じじゃないか」と、「初めの教育をどうするのかというのをしっかり考えていく必要があるんじゃないか」という経験に基づくお話をいただきました。

その次に、タイトル自体が「21世紀を生きる若者たちへの期待」～地球規模の人づくりに向けて～というタイトルでお話をいただいたんですが、国際感覚をもっと磨いていかなきゃいけない、これが非常に強い思いや意思を感じました。

菅谷市長自身は、あまり早期の英語教育に関しては疑問を呈していて、「それよりも大事なことは日本自身を知る大切さだ」と。「外国人とかコミュニケーションをしていて、言葉じゃなくて、本当に語らなきゃいけないのが日本のお花や仏教、歌舞伎、お茶、そういったことを知らないと会話ができないので、そういうことをまずは知っていくこと、理解していくこと、体験することが真の国際人なんじゃないか」。

そんな話をしていただきながら、ご本人も本当にチェルノブイリやそういった世界の中で活躍してきた、視点に置いた活動をされてきたので、もっともっと地球市民の発想という、「地球は1つのムラなんだ」という意識をこれからの若い人たちは持っていかなきゃいけないんだ」ということを「地球規模で生きていくんだ」ということを強調されていたなあというふうに思います。

これ自身は、今、飯田市が第二次教育振興基本計画の重点目標に掲げている、ローカル・グローバル、LG飯田教育の概念と本当同じことをおっしゃっていらっしゃるなあというふうに思いました。

「act global, think local」、こういった地元で活躍しながら、世界視座で行動する、こういった一体的な教育というのを言葉は少し違いますけれども、非常に強調されていたなあというふうに思いました。

あと、その中で行動することというのかなり強調されていたなあというふうに思っていて、これは少し下に書きましたけれども、留学に行ったときに、「行動を起こさなければ何も生まれないんだよ」としきりに言われたと。そして、後で、シェイクスピアの言葉の中に

も「良いことを言うのは善行の一種なんだ。しかし、言葉は決して行為ではない」ということで、「やはり行動を伴うということが大事なんじゃないかな」というふうなお話をさせていただきました。

紙面の一番最後になりますけれども、もう1つ、スマホの害については、医療従事者ならではのだなあと。子どもたちが今スマホに慣れ、対人関係の弱さ、また、脳科学的な問題というのは指摘されているのにも関わらず、なかなかこれが是正されない。この情報過多のスマホの問題というのは大問題なので、これは早いうちから手をつけなきゃいけないというふうに思っています。

その中で、「こうした地域の課題とか地域のことを学ぶというような時代の中で、これからの教育というのは画一的な教育制度という今までの弊害から、地方分権型の教育というものをもっともっと試みていきたいし、松本もそんな試みを教育長とやっていきたいんだ」ということを最後のまとめでさせていただきました。

これを聞いて、やはり行政のトップである市長と、また、教育委員会、教育長と本当に方向性、コンセンサスを取りながら、もちろん手法の違いはありながら、こういった思いというのは多分市長と総合教育会議でやっていただいて、いつも皆さん同じ方向に向いているんだなあというふうには思うと思いますが、そんなところを松本市に負けないようにというふうに言うと語弊がありますけれども、切磋琢磨しながら良い教育を飯田市としても取り組んでいきたいとそんな思いを感じた教育長会議でした。

私のほうからの報告は以上です。

今の報告について、何かご質問ご意見等あればお願いします。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） はい、それでは、後ほどいろいろフォローしていただいて、活動報告の不足をフォローしていただければと思います。

---

## 日程第6 議案審議

○教育長（代田昭久） それでは、日程第6 議案審議。

今月の議案審議7件になりますのでよろしく願いいたします。

---

## 議案第21号 飯田市結核対策委員の任命について

○教育長（代田昭久） まず、1つ目、議案第21号、「飯田市結核対策委員の任命について」お

願います。

桑原学校教育課長、願います。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第21号をお願いいたします。

「飯田市結核対策委員の任命について」でございます。

飯田市結核対策委員会条例第4条第2項の規定に基づきまして、ここに記載のものを飯田市結核対策委員に任命をしたいというものでございます。

委員の氏名、住所、役職、それから、備考の選出区分につきましてはご覧のとおりでございます。小中学校におけます結核対策方針を定めるに当たりまして、専門的な意見を徴するため、同条例第4条の規定により関係機関から6人の委員を選出し任命したいとするものでございます。任期につきましては、令和2年3月31日までとしています。

以上でございます。よろしく願います。

○教育長（代田昭久） はい、桑原学校教育課長ありがとうございました。

今、報告ありましたが、今の提案について何かご意見ご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、任命について、承諾ということでよろしく願います。

---

## 議案第22号 飯田市社会教育委員の委嘱について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第22号、「飯田市社会教育委員の委嘱について」願います。

北澤生涯学習・スポーツ課長、願います。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） それでは議案第22号よろしく願います。

飯田市社会教育委員につきましては、こちらのほう業務としましては、社会教育に関する諸計画を立案し、定期または臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ意見を述べる。職務を行うために必要な調査・研究を行うということで、12人以内、2年の任期で業務を行います。

今回につきましては、再任の方もおられるわけなんですけど、2名の方が新任ということで、中ほどにある竹内 稔様、それから、下の平田睦美さん、それから、学校の関係については留任という形であります。それぞれの分野、社会教育の分野から選出されておまして、文化・芸術、生涯学習、青少年健全育成、それから、学校教育、家庭教育、考古学、図書、地域、それから、多文化共生、公民館教育と幅広い分野からそれぞれの学識のある方になりま



す。

任期につきましては、令和3年3月31日までということですのでよろしくお願いします。

以上、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

今の説明について、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（異議を唱える者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということにします。

---

### **議案第23号 学校体育館施設開放運営委員の委嘱について**

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第23号、「学校体育施設開放運営委員の委嘱について」  
お願ひします。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願ひします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） それでは引き続きまして、議案第23号、「学校体育施設開放運営委員の委嘱について」ということで、こちらにつきましては、学校体育施設開放運営委員会につきましては、学校体育施設開放の計画、体育施設管理運営に関するということと、現在、伊賀良地区、それから松尾地区、それぞれ組織されています。こちらにつきましては、中学校区単位ということと会議等を開催しております。

こちらのほうご覧のとおり伊賀良小学校体育施設開放運営委員会委員、それから旭ヶ丘中学校体育施設開放運営委員会委員、それから緑ヶ丘中学校体育施設開放運営委員会委員、松尾小学校体育施設開放運営委員、それぞれ記載のとおりお名前、それから住所、役職載っておりますのでよろしくお願いします。任期につきましては、伊賀良小、旭ヶ丘中が2年、緑ヶ丘中、松尾小が1年となり、令和2年3月31日までということですのでよろしくお願いいたします。

以上、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。今の説明について、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（異議を唱える者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしく願いいたします。

---

#### **議案第 2 4 号 飯田市図書館協議会委員の選任について**

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第 2 4 号、「飯田市図書館協議会委員の選任について」  
願います。

瀧本中央図書館館長願います。

◎中央図書館長（瀧本明子） では、議案第 2 4 号、「飯田市図書館協議会委員の選任について」  
願います。

この議案は、飯田市図書館協議会委員の任期が満了になりますので、飯田市図書館条例第  
1 2 条により教育委員会の任命を求めるものでございます。

任命をお願いします委員は表に記載してありますが、社会教育団体の方、学識経験者、そ  
れから家庭教育関連活動に関わる方など 1 0 名の任命をお願いしたいと思います。

期間につきましては 2 年と定められておりますので、令和 3 年 3 月 3 1 日までとさせてい  
ただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

今の議案の説明について、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（異議を唱える者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしく願いいたします。

---

#### **議案第 2 5 号 飯田市歴史研究所協議会委員の任命について**

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第 2 5 号、「飯田市歴史研究所協議会委員の任命につい  
て」願います。

◎歴史研究所総務係長（佐々木美鈴） 歴史研究所総務係長の佐々木と申します。本日、小椋が所  
用で欠席となりますので代理でご提案させていただきます。

議案第 2 5 号についてご説明いたします。

歴史研究所では、研究所の円滑な運営及び市民との連携した事業の推進を図るため飯田市  
歴史研究所協議会の設置を条例で定めております。教育委員会の諮問に応じ必要な事項にお  
いて協議し意見を述べることとなっています。

このほど、協議会委員の7名の内2名の方について、所属される団体からの転任、退任がございましたので、後任の委員を任命したいとしますのでございます。

お名前と所属先等は議案に記載のとおりでございます。任期は令和2年3月31日までです。

以上、ご審議のほどよろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

今の説明について、何か意見ご質問等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（異議を唱える者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしく願いいたします。

---

#### **議案第26号 飯田市小中連携・一貫教育推進委員の委嘱について**

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第26号、「飯田市小中連携・一貫教育推進委員の委嘱について」をお願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第26号をお願いいたします。「飯田市小中連携・一貫教育推進委員の委嘱について」でございます。

飯田市小中連携・一貫教育推進委員会要綱第3条第2項の規定によりまして、記載の者を飯田市小中連携・一貫教育推進委員に委嘱したいというものでございます。

区分ごとの氏名につきましてはごらんとおりでございます。

小中連携・一貫教育の指導体制及び教育環境・教育課程に関する事項の方針の策定、その他、全体調整等を行うために記載の18名の委員を委嘱したいというものでございます。任期につきましては、1年間ということで、令和2年3月31日となります。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

今の説明について、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（異議を唱える者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしく願いいたします。

---

## 議案第27号 飯田市美術博物館評議員の選任について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第27号、「飯田市美術博物館評議員の選任について」  
をお願いします。

榎村美術博物館副館長補佐、お願いします。

◎飯田市美術博物館副館長補佐（榎村洋介） 議案第27号、よろしくをお願いします。「飯田市美術博物館評議員の選任について」です。

飯田市美術博物館条例施行規則第5条2の規定に基づき下記の者を飯田市美術博物館評議員（人文・考古分野）に選任するというものです。委員につきましては、こちらの氏名、住所等を閲覧ください。

提案理由ですが、人文・考古の分野において、評議員1名が任期途中で離任したため、新たに上記の者を選任したく提案するものです。任期は令和2年3月31日までです。

以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいまの説明について、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（異議を唱える者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしくをお願いします。

以上、今月の議案を終了させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

---

## 日程第7 協議事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、協議事項に移りたいと思います。今月の協議事項2件になります。

---

### （1）飯田やまびこマーチについて

○教育長（代田昭久） まず、「飯田やまびこマーチについて」をお願いします。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） よろしくをお願いします。

ちょっとお時間をいただきましたので、資料No. 1「第33回飯田やまびこマーチにつ

いて」ということで、今日、教育委員会の皆さんにこういうお話をさせていただく機会があったということでありありがとうございます。

33回を迎える「飯田やまびこマーチ」についてなんですが、協議事項というふうになっておりますけれども、当日の運営とか、あるいは大会全体の反省は実行委員会等で反省があります。それぞれ職員のレベルの反省というのを今やっておりますので、全体の中で皆さんの中でご意見をいただければという部分もありますのでよろしくお願ひしたいと思います。

「飯田やまびこマーチ」につきましては、今大会までの経過ということで簡単に記載してありますが、抜粋した部分でお話をさせていただきますと、昭和62年に飯田・大平宿・馬籠間で第1回大会を行われたということで、市政50周年記念ということで、当時の松澤市長が始めたということです。何か記念にということがまず第1回です。

それから、一番大きい部分というか、平成2年の第4回大会から全国の公式大会で構成されるJML、日本マーチングリーグ協会というんですが、これに2番目に加盟したということで、1番目に加盟しているのが東松山の日本マーチングリーグのスリーデーマーチということで、現在18の大会が認められているということで、この加盟されるのがなかなかハードルが高いということで、これに認定されているがゆえに多くの外からの参加者があるということと、公式の大会で全国からの認知があるということでもあります。

平成13年、その間いろいろ会場が変わったりいろいろなこともあったかと思うんですが、15回大会から現在の基本となる多彩なコース設定がなされたということ。平成15年、第17回大会でPTAが主体的に参加して、参加者が全体で4千人を超えるという状況になりました。

それから、いまだにこれ記録的な参加人数になっていますが、平成18年の第20回記念大会にフィギュアスケートの浅田姉妹が来飯したということで、参加者が5,399人、この人数は非常に多いということです。

それから、平成23年、第25回大会、韓国原州ウォーキング大会との友好提携締結式という形で、今の訪問が実現したということで、国際的な大会にもなってきたとこういうようなそれぞれの経過があります。また、パンフレット等、あるいはガイドブック等記載されておりますので、またご覧いただきたいと思います。

こういった歴史を踏まえる中でいろいろなことをやってきたんですが、33回の実績概要ということで、4月27日・28日に中央公園スタート、全国でもほかの大会にはない多彩なコースということで、27日に8コースと28日7コースと、それに前の日のおもてなしコースということで、飯田市外散策と、29日、せっかくウォークということです。そうい

ったことが魅力であるということになると思います。

それから、参加者が4,547人ということで、昨年度4,697人ということなのですが、ここ4年間、平成28年から担当しておりますけど、4,500人以上の参加がありました。非常に天候に恵まれているということです。内訳は、地元約3,000人、地元外約1,500人ということで変わっておりません。

また、こちらのほう2ページと3ページ、それぞれ変遷と推移ありますが、特に2ページにつきましてはそれぞれ各コース、先ほど教育長からあったとおりのコースそれぞれ人数をまとめてありますが、その年その年で変わるということです。

また、3ページ見ていただければわかるんですが、右肩上がりです上がってきておりますが、ここ4年間4,500人を超えているということで、30回記念大会以降、大体4,500人をキープということで、今年はちょっと少ないのかなというふうに思っておりましたが、4,500人来ていただいたということです。

PTAコースも同じように参加をいただいたということです。ただ、今年、昨年より減った要因としてはスポ少の参加人数、特に中学生等、あるいは部活動あるということで、連休の初日ということで130人くらい少なかったというデータのものは、理由ははっきりしているということです。

地元外約1,500人参加というのは日本マーチングリーグという権威のある大会で、そういう形で人がたくさん来ているということだと思います。

特にそういった特徴、先ほどありましたように特に大会を支えるスタッフということで、中高生のボランティア、地元のおもてなしというのが非常に大きいのかなということと、大平コース、特に県外からの参加者が60人から80人に増員したということで、以前は1泊2日であそこの大平へ泊まって、参加者が減少して、どういうふうにやっていくかということもあって、それを片道に切り替えてバスでそこまで行って、そこから歩いてくるというコースに変えてからが非常に人数が増えてきたということで、特に大平コースについては、特に一番過去の中でも非常に多い人数じゃないかということです。この歴史的な経過は大平からスタートというところも大事にしてこういう形にしております。

それから、焼肉コースについては、3年目を迎えますけれども、これは飯田の特徴の焼肉ということで、始めたころは20人くらい、参加者。昨年の2倍の51人の参加ということで、イチローのものまねをするニッチローさんに参加いただいたということで、パフォーマンスも非常にたくさん人が集まりました。

それから、和菓子のプレゼントということで、一二三屋まん十さんのご協力をいただきま

して、今回2回目なんですけど、200人までというか、5人以上で申し込みすると和菓子をプレゼントということで贈呈をしたということです。こういった特徴を今回展開をしたということです。

それで、「日常的な運動週間の定着のためのウォーキングの普及」というふうに記載してあります。こちらのほう、この「やまびこマーチ」をきっかけとして、成人の運動習慣定着、それから子どもの体育の運動能力向上というのを考えております。

そういったきっかけとして定期的に月いちウォーキングと、公民館で連携してやっています。9回実施しておりますが、12回、毎月1回はやろうということなんですけど、雨の日とかそういったことで急遽やめましたけど、昨年度延べ814人参加。各地区の特徴あるコースが魅力となり参加者が増えつつあるということです。

来年度に向けては、大きな事件・事故の発生がなく安全な運営が行われるよう取り組んでいくということで、本部にありますといろいろ反省事項、運営の中でいろいろあります。まずはそういった大きな事故がなく運営できました。

それから、引き続きウォーキングをきっかけとしたスポーツ習慣の普及に取り組んでいくということ。

それから、教育長からも話したように、天龍峡大橋をコースに組み入れるコース検討と、来年に向けては大会が盛会となるように進めていくということです。

私の課題の認識としては、非常にウォーカーが高齢化しているということで、これは飯田市だけの問題ではなくて全国的にそういうウォーカーが高齢化しているということが、非常に課題になっているということです。

それから、飯田市は地元のおもてなしって非常に評価が高いことなんですけれども、それぞれの場所でご活躍とかご協力いただくことがありまして、その負担が非常に重くなっているというようなところが課題でありまして、これが飯田市の魅力と、あと、日本マーチングリーグの中での評価の高い大会というのものもあるわけなんですけれども、そのところのバランスが非常に難しいのかなというふうに思っています。

他の大会、話を聞きますと「そこまでのおもてなしはしていない」というようなところもありますので、こういったところでウォーカーの高齢化の問題とかそういったところもありますが、この2点、負担が重いのかなというふうには思っていますが、なかなか始めている方は熱心にされている部分がありますので、そういったところで今後の課題というか、検討していきたいというふうに思います。

まあ、できる範囲でのおもてなしというところも満足してもらおうと思いますが、そうい

ったところを今後の課題というふうに考えています。

いろいろ運営とかそういったものの反省については、また、こちらのほうの実行委員会で反省するんですが、何か教育委員さんのほうでご意見、あるいは「こういうふうにしたらい」とかあれば、ご意見いただければと思います。

よろしくお願いします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

今大会の「やまびこマーチ」の説明と今の課題等の話がありましたけれども、委員の皆さんで何かお気づきの点等あればお願いします。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 課題に、ウォーカーの方、歩いていらっしゃる方たちの高齢化というようなお話がありましたが、高齢化の方たちがウォーキングされることが課題というか、その後ろにある課題、若い人たちが歩かない、多くなれないということを課題にされているのか、それともその適したコースの指定がないということを課題にされているのか、ウォーカーの方の高齢化に対する課題が何が課題なのかをお願いします。

○教育長（代田昭久） はい、北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） ありがとうございます。

ウォーカーの高齢化の課題ということで、まず新しい方が入ってこないという後継者というんですかね。役員さん自体も高齢化しておりますので、そういったところの部分と歩かれる方が非常に健康面で心配な場面というか、そういった部分もありますので、そういったところとか若い人にはどんどん入ってきてほしいというところがまず第1点だと思います。

その点、飯田市の場合、PTAコースというのがありますので、そういった方で親子で触れ合ったりとか、若い間にそういった経験をする、お子さんの間に経験するというのは非常に今後続いていくためには期待できるのかなというふうに考えていますが、1つはそういったことで課題になっています。

それから、もう1点は、「飯田市のコースは非常に山坂が厳しい」ということを全国のウォーカーからも聞きますので、そういったところで特に高齢化になって「非常に歩くのが大変だ」ということ、何かそういった方も声を聞きますので、そういったところでそれぞれ合ったコース、多彩なコースあるので、コースを選ぶときにそういうふうを選んでいただければというふうに思っております。

2点ちょっと課題かなというふうに思っています。

○教育長（代田昭久） はい、いかがですか。そのほかについて、何かご意見ありますか。



◇教育委員（三浦弥生） 役員の方の高齢化といったお話や、また若い人たちの新規参入がないというようなお話でしたので、またそういった若い人たちが歩くためにはということをやはり考えていかなきゃいけないんだなあとこのところを思いましたし、あと、ちょっとコースのあれでしたけれども、町中を歩くようなコースもあったでしょうか、散策するような。

○教育長（代田昭久） はい、北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） あります。赤石コースというのがありますので、今年、春草のゆかりの地を回るといって、美博を中心に回ったりとか、5キロコースとか、PTAコース、それから、前日のおもてなしコース、それから、29日のせっかくウォークとかそういった歩きやすいコースも幾つかあります。

それで、今ちょっとウォーカーの高齢化っていう話も出ましたが、それが悪いとかそういうことではなくて、90過ぎの方が歩いている、私もすばらしいことだというふうに思っていますので。それ自体が問題ということではなく、新規参入というところが気になっているという部分なので、そういったことでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○教育長（代田昭久） はい、三浦教育委員。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

いろいろなコースを考えていただひいて、今も「90歳の方が」といひお話もありましたけれども、お年をとった方も参加ができるといひことではすばらしい本大会なんじゃないかなあといひふうに思ひます。

また、そういった大きな大会をする中で、こういった課題も考えてられますし、高齢者が多いといひことでは観光面といひこともいひことですので、本大会でそういったことをきちんと考えているので、こう事故がなく、安全に大会を終えているといひことも普段から認識されているからこそだなあといひことは感じます。

済みません、感想でありました。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

それに続ひいて、私のほうから質問なんですけど、健康面での高齢化の不安がある。今、飯田では安心なんですけれども、今事故起こっていないんですが、そのJML（全国マーチングリーグ）のほうで大きな事故とかそういった高齢者が倒れちゃう、そんなものは課題になっているんでしょうか。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） そういった大きな報告といひのは特別なひいです、現時点では。ただ、心配する声が会議の中でも出ているといひことをお聞きしてあります。大きな

事故があるということはあまり聞いていないので。ただ、非常にそういったことで「心配される」という意見は出ているというそういう状況です。

○教育長（代田昭久） はい、わかりました。

ですので、私自身も高齢の方が歩いているのを見たときに、起こらない対策や起こったときの対策はそれなりにやっぱり必要なんだろうなあというふうには感じましたので、そんなところも1つのまさに課題だなあ、解決していききたいなあというふうには意識できればなあと思います。

ほかにいかがでしょうか。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） こんなに長くやってられて、今回、こういう資料をしっかりといただいて、毎回になるんですけど、あまりにも知らない点が多かったので反省しています。

「おもてなしが良い」ということなんですけど、具体的にどういうおもてなし、おもてなしコースというのはもちろんあるんですけども、どんなおもてなしがあるのかなあと、ちょっと具体的にお聞きしたいんですが。

○教育長（代田昭久） はい、北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 残念ながら、私もそのおもてなしの現場にいたことはないのですが、いつも本部にいるもので。話を聞く限りという話になるんですけど、特に「かごこし子どもの森公園」へ行く前の北原土木さんのタケノコ汁とか、あるいは婦人会のウェルカムパーティーのおもてなしとか、あるいは天龍峡における「昭和乙女の会」のいろんなおもてなしとか、それから山本の婦人会のおもてなし、それぞれしっかりやられているという話を聞いて、「よかった」という好評はいただいております。

現場で見てないので何とも言えないのですが、そういった評価をいただいております、全国のウォーカーもそれを楽しみにして来ているということをお聞きしております。

そういったさまざまなおもてなしが各現場でやっていますし、チェックポイントごとにいろんな工夫を凝らしているというのをお聞きしております。

◇教育委員（伊藤 昇） マラソンなんかもよくそういうことをされているので、特別飯田がそうなのかなあと思っていたんですが。今度の東京オリンピックも「おもてなし」という言葉がキーワードになっていますが、まただんだん調べていただいて次回のときにお聞きしたいと思います。

その質問ついでに、「せっかくウォーク」というこの言葉の意味がちょっとわからないんですけども、その言葉の語源というか、どこから来ているものか。

○教育長（代田昭久） はい、北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） せっかく来たんだから3日間ということで、スリーデーマーチという考えでおりまして、それをせっかく来たんだから、せっかくということで実施しております。よろしくお願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） はい、わかりました。ありがとうございます。

○教育長（代田昭久） 私も冒頭触れた「おもてなし」という点で言うと、マラソンに比べると沿道でいろんな物が食べれるというほどではないんですが、やっぱりチェックポイントに行くと漬け物が出たり、お菓子が出たり、お水が飲めたり、お茶が出たりするんですけども、その出している物も確かにおいしいんですが、やっぱり会話もいいんです。「わあ、えらいや」とかそういう会話のところがやっぱり物理的というよりは向かい合いだなあという感じと。

あと、やっぱりもう1つ言っているのは宿泊するじゃないですか。で、高いホテルではないので民宿とか行ったときにいろんな料理出してもらって、その宿泊場所でのおもてなしが良いというようなことは言っていたいているかなあと。

これは、ごめんなさい、私も全体を見ているわけじゃないので個人的な会話の中でのおもてなし、そういうふうにとらえていただいているかなあというふうに思います。

どうぞ。

◇教育委員（三浦弥生） 今のおもてなしに引き続いてですが、先ほど課題の中で、「おもてなしの充実と、あと協力する方々への負担というところのバランスが」というようなお話があったかと思います。

例えば、来る方たちが「おもてなし良かった」という感想がある中で、それぞれの部署でも感想を反省されているということでしたけれども、例えば、おもてなしをする側の人たちが「地域が元気になってよかった」とか、「外部の方とお話できてよかった」とか、そんなような感想とかがもしお聞きになったことありましたらお聞かせいただければと思います。

○教育長（代田昭久） はい、北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 特に私が直接話をした中では、山本の婦人会の方の、特に鳩打と、それから杵原、それぞれでやっていますけれども、「非常に楽しみにしている」ということを言っておられましたし、「来た人との交流が楽しい」ということも聞きましたし。

今回、「かざこし子どもの森公園」の手前にある北原土木さんのほうでは、非常に張り切

ってタケノコを準備されていて、「迎えなければ」ということで前の晩からということを通じてちょっと今年はタケノコの出が悪かったので、ちょっとお伺いしたりとかして話をさせて  
いただいて。

ということで、それぞれ現場では張り切っていますけれども、特に今年については「タケ  
ノコが出なくて非常に苦労している」という話を聞いたりとか、前の晩から準備をやっている  
といういった負担というのはやっぱり重いんだなということと、山本の婦人会についても  
2カ所を担当するというので、実際のところ非常に「それはそれで大変だ」というお話をお  
聞きしておりますが、「その分張り切っている」というようなこともいただいております  
ので、そのバランスも考えていかなきゃいけないなということで、私のほうの感想になり  
ますがよろしくをお願いします。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 時間は大丈夫ですか。

○教育長（代田昭久） はい。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 資料1のところの3番のことにも関わる部分です。それから、  
さっき課題と言っていた参加者の高齢化というようなことで、新しい方がなかなか入っても  
らえないということとも関わることの質問です。私は鼎地区に住んでいますので、5月3日  
に毎年ずっと恒例のワンデーマーチというのがあって、地域内を7キロくらい歩くんですけ  
ど、地域の方が500人くらいは参加します。

歩いた後は地区ごとに分かれて焼肉大会を地区ごとやって、とても楽しい催しだし、地域  
の人ともなじみになれるし、子どもからお年寄りまでが参加できるというようなのがあって、  
それが多分3番の後半に書かれていることですね。

自分の記憶だと、そのときに市内のあちこちで開かれるウォーキングがポイント制になっ  
ていて、何回以上参加するとみたいなカードをいただいているような経過があるんですけど、  
ああいう地域でやっているウォーキングの催しと、さっき参加者の高齢化とか新しい方が入  
ってこないという辺りのところをどんなふうに結ぼうとされているか。きっかけは地域のほ  
うにあって、この「やまびこマーチ」のほうにも何か、そういう中から歩く楽しさにつなが  
ってくるといいなあと思っているのですが、その辺の関係はどうですか。

○教育長（代田昭久） 北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 先ほど北澤先生が言われたとおりで、鼎地区のワンデー  
マーチも連携して、各地区で実施している公民館も主催したウォーキング大会とか、それか

ら、この月一ウォーキングにつきまして、あとは幾つかの歩くグループあります。そういったところと連携しながら、そこで実施している各地区の大会に市内のほかの地区からも参加してもらってウォーキングの習慣を定着しようということで3年前から始めております。

それが、だいぶ定着しております、考え方としては各地区でやっているのと連携しながら、それが裾野を広げているし、場合によっては地域の保健師さんと連携しながら健康ウォーキングとか、そういったのと連携していきたいということで実施しております。

また、年間通じてのお知らせとかそういったものを生涯学習・スポーツ課で出す形で、それぞれの大会でもPRさせていただくということで、ポイントとかそういったところも考えながら実施しております。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

今、貴重な意見をいただきながら、またより良い「やまびこマーチ」にしていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

---

## （2）オーケストラと友に音楽祭について

○教育長（代田昭久） 続きまして、協議事項の2つ目、「オーケストラと友に音楽祭について」をお願いします。

柵田文化会館館長、お願いします。

◎飯田文化会館館長（柵田昭彦） それでは、「オーケストラと友に音楽祭2019」の実施報告をさせていただきます。

まず、「オーケストラと友に音楽祭」でございますけれども、歩みをひもときますと1989年から20年間にわたり開催されてきました「アフィニス夏の音楽祭」というのがございまして、それが開催方法の変更ということで、飯田での開催を終了したということをつけかき「アフィニス夏の音楽祭」が残してくれた音楽を楽しむ機会、これを将来につなげていきたいということで、音楽祭を支えてきた市民の有志が「市民による市民のための音楽祭を自分たちでつくり上げたい」ということで、会議を重ねてスタートしたのが2009年5月にスタートした「オーケストラと友に音楽祭」でございます。

基本理念のほうですが、こちらのほうに記載してありますけれども、「市民とプロオーケストラとのコラボレーションによりクラシック音楽を楽しみ、学び、子どもと市民と地域社

会に広がっていく市民が創る音楽祭」ということが理念になっております。

10周年を昨年迎えましたが、その中で内外の有識者の皆さんとの知見を交えて、この音楽祭自身の将来ビジョンを昨年作成し、クラシックの音楽の花咲く町飯田ということで、現在取り組んでいるところでございます。

それでは、4月29日、5月3日から5日までの間、開催されました2019の音楽祭の状況についてご報告します。

例年のとおり、今年も名古屋フィルハーモニー交響楽団と連携し、9つの事業を実施しております。

まず始めに、(1)番でございますが、「小学生のための音楽ひろば」ということで、学校で音楽鑑賞の機会が少なくなる中で、生のコンサートや楽器体験で音楽を楽しんでいると感じたり、感動できるものを提供したいという形で企画されているものでありまして、貴重な音楽を体験できる機会となっております。

(2)番の名古屋フィルハーモニー交響楽団の名曲コンサートでございますけれども、フルオーケストラによる重厚かつ迫力のある生演奏を聴ける貴重な、地域としてもそういう貴重な機会としてコンサートが開かれております。音楽のすばらしさや感動を与えて、クラシック音楽に対する市民の関心を高めることができているというふうに感じているところでございます。

(3)の「そよ風☆コンサート」でございます。これにつきましては、市民の皆さんに気軽に音楽を地域の店舗や野外などで不特定の皆さんに地元の演奏家が生演奏をすることで、クラシック音楽を楽しむことの楽しさ、身近に音楽を楽しんでいる団体があることを知っていただく機会となっております。

「まちかどコンサート」としましては、ごらんのとおり会場としてりんご並木や、「ホールコンサート」につきましては、文化会館のホールを使いまして、このようなコンサートを行いました。

次に(4)番の「にこにこステージ音楽祭スペシャル～小さな子どもと、子育て中のお父さん、お母さんのためのコンサート～」でございます。小さなお子様や子育て中のお父さんお母さんのためのコンサートでして、幼児の情操教育の一助となると同時に、育児中の親の皆さんのリフレッシュの機会となるということでこのコンサートは開催されておりまして、4月の29日に飯田人形劇のほうで開催しております。

次に、(5)番の「コミュニティーコンサート」でございますが、文化会館まで来られない皆様にクラシック音楽を聴く楽しさを知っていただく、プロの演奏に触れてもらう機会、

貴重な機会としまして、いわゆるデリバリーコンサートという形で開催していただいている内容です。場所としましては、今年は売木村の文化交流センター「ぶなの木」での開催、あと、飯田市竜東中学校の体育館のほうで開催をしております。

最後、(6) 番の音楽クリニックでございますが、年間を通じて市民がプロ等から演奏の技術や芸術性の向上を図る学びの機会としまして開催しているものでございます。コンサートという形では、5月の4日にその成果として文化会館のホールで開催させていただきますし、それに至るまでの間「音楽クリニック」の公開としては文化会館や各公民館、今年度は千代公民館での講習風景をごらんいただいております。

プロの音楽のクリニックを通じまして、演奏の上達、技術の上達やそれを積み重ねて向上していくことで、音楽のすばらしさや魅力を感じてもらえる機会となっているというふうにとらえております。

なお、参加者数でございますが、現在、実際のチケットの販売枚数等でお手元のほうの提示となっております、若干速報値とは若干数字が違いますが、実行委員会のほうで、現在精査している現時点での数字がこのようになっておりますのでご報告いたします。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま報告がありましたけれども、ご意見等あればお願いいたします。

それでは、私のほうから。先ほど「やまびこマーチ」、課長のほうから課題というのが提示されたわけですけれども、今、実行委員会なり文化会館のほうでこの「オケ友」に対する課題というのはどういうふうな認識をしていらっしゃるのでしょうか、お願いします。

◎飯田文化会館館長（棚田昭彦） 「オケ友」の実行委員会では、昨年つくりましたビジョンに基づきまして、それを具体的に進めるための今方策を考えているところでございます。

今年度は、昨年ビジョンをつくりまして、今年第1回目のスタートでございますので、今回の開催内容を踏まえて評価を行いまして、じゃあ自分たちのつくってきたビジョンとどのような課題があるのかどうかということで今後評価して、今後の音楽祭のあり方をちょっと検討していきたいというような形で考えているところでございます。

今後は、その評価に基づいて、その目指す姿、ビジョンに向けてのどのようなやり方をやっていったらよいかということを実行委員会のほうで検討して、また次年度に向けて、また報告させていただければという格好でございますのでよろしく申し上げます。

○教育長（代田昭久） はい、伊藤教育委員お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） こここのところの数値の参加人数とか小学生云々、それから名曲コンサー

ト、人数が毎回、年々増えればいいというものでもないんですけれども、特にクリニックのところなんかは8回、9回、10回、数字的に落ちてはいますけれども、今の課題の話にもつながるんですけれども、その辺のところはまだ分析はできていないと思いますけれども、どんな感想でおられるのかちょっとお聞きしたいんですけど。

○教育長（代田昭久） はい。

◎飯田文化会館館長（棚田昭彦） まず、クリニックの受講者につきましては、クリニックのやり方等若干変わったり、その年々で例えば初心者のための弦楽コースとか、改めてコースをつくったりとか、逆にコースをまとめたりしてやり方を変えていますので、それによってちょっと受講者が変わってしまうという状況が出ていますので、今までの実績を踏まえて、今後どのような形でより効果の高い講習方式でいったらよいのかということを実行委員会で今後検討していく形になると思います。

それに伴いますクリニックコンサートでございますが、出席された方には、確かにこれだけのクリニックを受けたことで子どもたちがこれだけ上達するということは感じていただいているんですが、その魅力をいかにクリニックに参加される方、その関係される方にもお伝えしながらコンサートをしっかり皆様にその成果を鑑賞いただくように取り組んでみたいということは、受講生のほうで若干話は出ておりましたので、そういう視点でまた大切にしていきたいと思っているものです。

以上です。

○教育長（代田昭久） 伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 私ども、クリニックを実際に見させていただいて、これも毎年見させていただいているんですけれども、音楽に別に精通しているわけじゃないんですけれども、やっぱりプロの方たちが真剣に時間を割いて本気で教えてくださるというのは、いろんなさまざまな問題があるかと思いますが、ぜひその具体的な数字が下がっているということですね、まあ原因は究明されてないとは思いますが、その辺を分析していただいて、やはり一番大事なところが、私はこの「オケ友」の中でもクリニックのところが大事なところかなあと。

一番という言い方はよくないですけど、ほかの小学生とかいろんなものもありますけれども、一番ここがポイントのところかなあと私自身はそう思っていますので、ぜひ実行委員会の方たちに働きかけていただいて、まあ試行錯誤だとは思いますが、年々伸びればいいというものでもないとも思いますけれども、何とか1人でも多くの方がプロの本気でやっていたらいいクリニックを1人でも多く受けていただきたいなあとそういうふうに思います。



○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 毎年ありがとうございます。こういった内容のことについて、いろいろ評価していかれるということは本当大変なことだろうなあと思います。

例えば、人数でどうだったかというところがとても大事なところではありますけれども、ほかに、例えば、この子どもたち、また、参加している方たちの技術面でこんなふうに向上了たということが例えばデータとしてとといいますか、見える形で何か評価につながるのか、例えば、子どもたちでしたら、参加した子どもたちがやる前後でクラシック音楽に対する興味であったり、あと精神的なものであったり、そういったものがこんな形でこんなふう伸びたとか、何かそんなようなところが評価するものが後で見えたと、将来ビジョン立てていらっしゃるので、この評価もできるのかなと思いますが、そんな点もし何かされていて、もうデータあるようでしたらちょっとまたお話いただきたいと思いますし、そのところの評価をどんなふうにお考えなのか、もしお考えがあったらお聞かせいただければと思います。

○教育長（代田昭久） 柵田文化会館館長、お願いします。

◎飯田文化会館館長（柵田昭彦） 音楽クリニックの評価につきましては、参加者の皆様に受講生の皆様にもアンケートを取りながらご意見をいただいたりとか、受講していただいたらどうだったかという形はとりまとめておりますけれども、具体的にその成果がどのように成果が上がってどうだったのかということについては、具体的な評価方法については、まだ実行委員会でもちよっと検討しながら、じゃあそのような取り組みが本当に効果が出たものかどうかということの評価していきたいというように実行委員会にも持ち帰りたいと思います。

○教育長（代田昭久） 小澤教育委員、お願いします。

◇教育委員（小澤由美子） それに重ねてなんですけれども、例えば、私の見たところ下伊那農業高校の生徒さんとかが多く受講されていたと思うんですが、それによって学校に帰って、ほかの吹奏楽の生徒さんたちとの教え合いとかがあつて、例えば入賞が多くなったとか、そういうのが聞こえてくるといいのかなと思いますのでお願いします。

○教育長（代田昭久） 北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 全く同じクリニックのところを見させてもらったので、どうしてもここに意見が集中してしまうのですが、それぞれの高等学校の吹奏楽部の中の分担で扱う楽器の人数が多い少ないがあるから、受講されている皆さんのグループによって人数の差がかなりある。クラリネットなんかは人数が多いし、逆に1対1でやっているようなところもあつて、正直言ってもったいないなああと、せつかくの機会なので1対1のぜいたくな機会

も素晴らしいんですけど、ああいうところに多くの高校生が機会を得て参加してもらえればうれしいなあと思います。

コマーシャルをしても来ないということもあるでしょうが、もう少し高校の顧問の先生方などにもご理解をいただいて、せっかくの機会を活用してもらえるといいなと改めて思いました。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

委員の皆さんから本当に意見ありがとうございました。

多分、私の記憶では、最近この協議事項の中で、オケ友の議論をしたことがなかったと思いますが、今出していただいた意見をぜひ事務局のほうでも委員さんからの貴重な意見ということでフィードバックして。私自身も評価の問題とか、参加人数の問題、大事な問題をご指摘いただいたなあというふうに思いますので、ぜひ次に活かしていただきたいなあというふうに思いますのでよろしくお願いします。

どうもご意見ありがとうございました。

---

## 日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第8 陳情審議。

今月の陳情審議は、ございません。

---

## 日程第9 その他

### （1）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第9 その他。（1）番、「教育委員報告事項」。

教育委員の皆さんの中から報告事項あればよろしくお願いいたします。

はい、北澤教育長職務代理人、お願いします。

◇教育長職務代理人（北澤正光） 先ほど、教育長報告事項の1番にもあったことで似たようなことになってしまうんですが、実際学校の全教室を、まだ学校がスタートして、1カ月ほど経っているんですけど、その間に長い連休があったり土日があったりしているから、実際の学校の登校日数というのは20日程度の辺から回らせてもらい始めて今ようやく残り3校まで来ているという状況です。

学校がスタートして間もない中で、全部の教室を見させていただくという機会をもらいながら、学校側からすると、特に校長先生、教頭先生からすると、私たちが行くことを逆手にとって、学校体制を整える動機づけに使っていただいて、新学期の日数が経っていないにも

関わらず、教室環境ですとか、構内の環境を整えて、新年度のスタートの体制がとられている学校が非常に多くありました。

そうは言っても学校ごとにそれぞれの個性もあるので、正直に言うと「せっかく子どもさんたちがいるんだからもう少し整えてほしいな」と思った教室も幾つかはありますけれど、ほぼ大多数はよくこの短い期間の中で、ここまで整えて始めてくれているなあとてもうれしく感じたということが1つです。

それから、短い時間の中にも関わらず学校の先生方、本当に新年度の思いをそろえて、とにかく「結プラン」を全教室でやろうというふうに、かなり意図的に進めているなあと感じられる学校ですとか、小学校では、せっかく配備された電子黒板を全教室でフル活用して授業しているという学校も幾つかありまして、これも飯田市が今進めようとしている方向を学校が受け止めて動いているなあということをととても心強く思いました。

一番は教育長さん、非常にフットワーク軽く、新年度のスタートの忙しいところだけでも、全部の学校に出向いて、しかも、その時間の約半分は全教室に足を運んで、子どもたちの姿や先生方の様子をつぶさにやっぱり見させてもらっているということがとても大事なことだと思って一緒に回らせてもらいました。

いよいよ1学期も佳境に差し掛かってきますので、「各学校頑張ってもらいたいなあ」と思っています。以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 私も教育長報告でありました内容のL G飯田教育についてですけれども、菅谷市長さんのお話の中から、本当にそういった飯田が取り組んでいるL G飯田教育というものに通ずるものがあるというところは、本当に飯田市の教育のあり方としては本当良い視点を持っているんだなというところを思わせてもらえるようなそんなお話であったかと思えます。

L G飯田教育については、教頭会に出席させていただいたときの調査研究プロジェクトという中で、私は、L G飯田教育プロジェクトというところのグループを見させていただいています。ほかのところも見させていただこうと思いましたが、ちょっと内容的に興味深かったので終始そのグループの話し合いのほうを見させていただいた感じています。

L G飯田教育については、新しい教頭先生がそこにいらっしゃって、まず、「Lはわかるけれども、Gはどういったものなんでしょうか」というご質問をまずされました。そのとき

に、そのことについて、新任で転入していらっしやった教頭先生じゃない、そのグループにいらっしやった教頭先生もやはり一度口をつぐまれるといいますか、ちょっとグループの中でもどうだったのかなというようなそんなような感じが見受けられたかなというふうに思っています。私個人としてもそうでした。

教育指導主事の田中先生がその中でいらっしやって、「Lを深堀りしたものがGなんだよ」というようなそんなご説明もありまして、「あ、なるほどな」というふうに私自身も思ったわけですがけれども、新しい教頭先生のほうからは、「「こういうものです」というものが確立されていないという認識でいいんでしょうか」というそういったご確認と、あと、「Gという世界の視点の概念が緩くなった」という考え方でよろしいでしょうか」というような、そんなようなご確認がありました。

ということで、私もそのグループの話し合い聞かせていただいていた、「わかりづらいな、概念が」というのを感じたわけです。L G 飯田教育、先ほども考えていまして、本当に地域、例えば、さっきの松本市長さんのお話でしたら、日本の良さを知って、社会で通ずるようなそういったところに生かしていくと、飯田でしたら飯田市のそういった1つ1つの地域のことを理解をしておいて、それを外に発信できるような、外のことも考えていかれるようなことであろうと思うんですけれども、なんせちょっと概念がわかりづらい。

そうなってくれば、今、いろいろなことで小学校、中学校の中でも先生方がLの知識からGのことを引っ張り出しているような授業をされている。

教育指導主事の田中先生の「例えばね」というお話の中では、この教頭会プロジェクトの中での話し合いでは、「例えば、米作りを題材にすれば環境のこととかを考えていく、こういうことなんですよ」というような具体的なご説明もありましたけれども、そういった幾つかの授業の中での積み重ねがあるので、改めて帰納的といいますか、演繹帰納的の帰納的、それぞれのものを概念的に少し改めてまとめるようなことをしたほうが、それこそ現場にいらっしやる先生方、教頭先生はじめ、校長先生やほかの先生方もわかりやすく、「教員がわからない、私たちもわからないとなると教育受けている子どもたちが余計わからないんじゃないかな」という思いもありまして、もう1回そんなところの概念をはっきりさせる必要がもしかしたらあるのかなというのを教頭会のプロジェクトに参加させて、見させていただいて感じたところです。

それで、前に伊藤教育委員さんもL G 飯田教育については報告されたときに、報告したとき「難しかった」というふうなお話を今されていたので、伊藤教育委員さんいかがですか。

◇教育委員（伊藤 昇） まあ最初に聞かれる方は確かに難しく、LからGへいくというところは

方向性はなかなか難しいところですが、今日ここでちょっとそんな大したこと言えないですけれども、英語教育に近い国際的なこういう世の中、要するにグローバルな世の中になってきたということで、そういう視点を常に考えることに持っていくほうがいいんじゃないかっていうそういうことで、多分、Gというグローバルということの見方を入れてきたと思うんですけれども。

どうしても学校、低学年なんかを見ていると、なかなかLをやっているGにすぐ結びつけづらいのでなかなか難しいんですけれども、だんだんにLを深掘りしていく中で、だんだんGというところに、今言ったように、米のことなら環境教育を結びつけるとか、それはまた先生の努力も要るかと思えますけれども。

今、三浦教育委員のお話を聞いて思ったことは、確かにこういうので乗り出しているんだけれども、我々はやっぱりここでちょっと多少肉付けをしていかなきゃいけないのかなというそんな思いもして聞いていました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

学校教育専門幹のほうで何かLGに関しては、何か、課題認識とか何かありますか。

◎学校教育専門幹（高坂 徹） はい。LGのほうについては、あれですので、個人的な見解を言いますと、飯田ではLGって言いますが、全国的には「グローバル」という言葉が主に使われているというか、「グローバル」と「ローカル」をくっつけるような、そんなような言葉を全体的には言っているかと思えます。

今、話題に出ましたが、いろんな題材の持つ要素というか、1つの要素でもローカル的な要素というか、教材みたいな話もありますし、先ほど米のことも話題になりましたが、そういう身近なところの要素を持っていますし、世界とつながるといような要素もあるので、その題材の持つものを両方のグローバルとローカルの両方の視点で、多角的というか多面的に見ていくというそんなことかなあと自分は理解しているわけですが。

ちょっとLG飯田につきましては、今お話がありました概念的なものは議論していかなきゃいけないのかなあということは思っております。

以上です。

○教育長（代田昭久） LGの報告書はまとめていましたよね。生涯学習・スポーツ課で。

じゃあ、ごめんなさい、北澤生涯学習・スポーツ課長お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） LGの報告書というのは、LG子ども未来事業ということで学校への支援事業として実施しております。その報告書はまとめております。

このLG子ども未来事業というのは、従来のふるさと学習事業をグローバルな視点でとい

うことの、グローバルなことを結びつける形で何か事業展開できないかということで展開をしています。

それで、それぞれの事業につきましては、先ほど伊藤教育委員さんがおっしゃられたとおり、小学校低学年から中学生までということで、なかなか授業としていろいろ難しいところがあるわけなんですけれども、そこは発達段階に応じてということと、必ずしも外国とかそういうことではなくて、他と比較というところからスタートをしてやっているということをやっています

教育長なり学校教育専門幹が言われたとおり、ふるさとを心根に置きながら地球規模で考えるということで、それによって自己達成感なり、あるいは課題解決なりといった能力を身に着けられればという趣旨で始めております。

ただ、これからリニア時代を迎えて、子どもたちへの変化が激しい時代なので、そういった能力を身に着けるというところの1つの、それを構成するICTとか、あるいは英語教育とかいろいろあるわけで、そのうちの1つを構成する事業としてふるさと学習を深めた事業をやっている、その事例集みたいなものを作ったということで、学校のほうで1つのこれをきっかけにしてもらえればということで事業展開をして、事業の事例集をお示ししたとおり、それを参考に少しずつでも進めていければということで、そういうスタンスで進めております。

◇教育委員（伊藤 昇） 教育長いいですか。

○教育長（代田昭久） はい。

◇教育委員（伊藤 昇） 去年ですかね、LGの発表をさせていただいたときに、今言った各学校のLの視点Gの視点の実際にやっているものの表一覧を見せてもらったんですね。私もそのとき初めて見たので、ぜひこの場でも見ていただくことがいいと思うし、また、先ほどの教頭会の際に出されたときに初めての方だとなかなかわかりにくいですけど、今まで小中学校でやってきたものがすべてじゃないけれど、こういう事例というのを見ていただくと説明するときにも、「ああ、こういうことでお金が出ていて、こういうことを助けてもらってやっているんだな」ということがわかるので、一応見てもらおうと授業そのものを。ああ、この学校、こういうことをやって、こういうことをやって、こういう視点でやっているというのを一覧表を見ていただくと私はいいかと思います、この場でも。

○教育長（代田昭久） そうですね。ぜひ今、問題提起でもあったので、理解を深めていきたいなあとは思いますが、わかりにくいと言えば、今まで積み上げたことは逆に言うと大切にしたいなあと思うんです。

要は、伊藤教育委員が去年発表して、私その会にいたときに「あ、わかった、わかった」とほかの市町村の方言いました。で、何がわかりやすかったかというと、今までは久堅和紙漉いていただけですよと、すいてたんだけど、この厚い紙というのは、こういう手法というのは世界にしたときになかなかなくて、すごい丈夫な紙になるんだという。

要は、田中先生言葉を借りれば、どんどんどんやったときにこの紙ってどのくらい強い、「強い、強い」と言うけど、どのくらい強いんだというときに、そのグローバルな視点を見たときに「どれだけ強いかがわかってきました」という子どもたちの感想があって、「あ、こういうことを飯田ってやりたいんだねえ」という発表があったときにわかりやすくて。

そういう事例を発表すればそんなに難しいことじゃなくて、地域のことが世界と比べたときにどうあって、そのときに紙の環境の話もしていきましょうというあれなので、良い題材とか良い事例というのは随所に事例集を見たときに出てきているなあというふうには思っているんで、むしろそういった好事例とかグッドプラクティスというのを今後、もうちょっと話としてだったり。

実際には授業でやっている先生たちきっと多いと思うんですよ、そんなに全く新しいことを始めようではなくて、まさに理念や概念のある種の焼き直しで飯田版にしているので、そんなところをまた勉強会してみるといいのかなあというふうに思いました。

三浦教育委員。

◇教育委員（三浦弥生） そうなんです。私もわかりづらくてどうのということが今回言いたかったのではなくて、たくさん今言われたような事例、今の教育長さんのお話わかりやすいわけ。そういうところの幾つもの事例も授業いろいろやっていただいている事例がある。それで、今のお話わかりやすい。

そういった形でやっていただいているそういった実際の授業とか、そういったものが幾つもうあるわけなので、そこからこう上手に、上手にというか帰納的に持ってくればLG飯田教育というもの、今ご説明いただいたもののもっとまとまった概念的なものが幾つか出てくるんじゃないのかなと。

済みません、自分がやってもないのにそんなことを言っていますが、出てくるんじゃないかな。それって周りの人にも「ああ、こういうものか」というのが同じ認識でわかる言葉とか考えが出てくるんじゃないかなというのを少しプロジェクト聞かせていただいて思ったという、そんな今日は発言です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

いずれにしろ私自身も非常にまだまだ課題が多いし、途上の重点目標だなあとはいっていますので、いろんな意見を聞きながら進めていければなあと思います。ありがとうございました。

委員報告ですね、ごめんなさい。委員報告で何を議論していたか。済みません、ありがとうございました。

ほかに教育委員さんのほうから報告いかがでしょうか。

小澤教育委員、お願いします。

◇教育委員（小澤由美子） 最近、小中学生の保護者のお母さんとお話をする、ゴールデンウィーク明けまでに家庭訪問が終えられたということなんですけれども、最近の家庭訪問って玄関で5分とかという感じになっているそうなんですよね。

働いているお母さんにとっては大変ありがたい。お掃除も玄関だけすればいいし、お茶も出さなくていいしという感じなんですけれども、ある一方で、「だったら別に家に来なくてもいいじゃん」という声もあったりして。来ていただいて家庭訪問するならいいと思うんですが、だからこそ子どもから出されるSOSとか、お家の異変とかというのをより先生方はアンテナをちょっと立てていただいてよく見てくる必要があるんじゃないかなと思って、ちょっとその辺だけ危惧してお母さんたちの話を聞きました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

◇教育委員（伊藤 昇） 私はありません。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。貴重な意見、また参考にさせていただきたいというふうに思います。

---

## **（2）教育次長報告事項**

○教育長（代田昭久） 続きまして、教育次長報告事項をお願いします。

◎教育次長（今村和男） はい。

---

## **（3）学校教育課報告事項**

○教育長（代田昭久） 3番、「学校教育課報告事項」をお願いします。

高坂学校教育専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（高坂 徹） それでは、別冊で冊子をお配りしました「令和元年度 特色ある学校行事・公開授業等一覧」のほうをごらんください。



各個に紹介したものをまとめさせていただきました。それぞれの学校ならではの特色のある教育活動、あるいは中学校ごとに行われております小中合同研修会の内容、参観日であったり、教育課程研究協議会等、公開授業等の一覧表になっております。それぞれ掲載しておりますので、委員の皆様方、時間等の許す範囲で参加していただければありがたいと思います。以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### （４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 生涯学習・スポーツ課関係報告事項をお願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 特別にありません。

○教育長（代田昭久） はい。

---

#### （５）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 公民館関係報告事項をお願いします。

秦野市公民館副館長、お願いします。

◎飯田市公民館副館長（秦野高彦） 資料No. 4をごらんください。

平成31年度の飯田市の公民館活動基本方針事業計画を説明させていただきます。

基本方針は、飯田市の公民館全体の方針ということを変更して確認をするため、昨年を引き続きまして飯田市の公民館基本方針事業計画としております。昨年のご説明を差し上げましたが、それまでは「飯田市公民館基本方針事業計画」というふうになっておりましたけれども、20地区すべての公民館のもとになる方針ということで、館長会で話し合いが行われておまして、この間に「の」が入っているということになっております。

1につきましては、現状と公民館の果たす役割の記述をしております。

2につきましては、具体的な役割について、公民館が果たす役割を実現するために何を中心に取り組んでいくかということを具体的に示させていただいております。

5の重点目標につきましては、1～4を踏まえて、飯田市の公民館が今年度特に取り組んでいきたいというものにまとめておまして、1・2・3については全公民館で取り組んでいくもの、なお、2につきましては、次世代育成で、大きくくりとして、①が小中学生、②が高校生、③が青壮年の世代で分けてございます。また④につきましては、成人年齢の引き下げに伴う成人式のあり方について、今年度検討を進めて公民館としての方向性を確認をしていきたいというふうに思っております。

めくっていただきまして、事業計画におきましては、1は、地区公民館と市の公民館が合同して行う事業、2は、地区公民館が主体的に行う事業、3は、公民館が主体的に行う事業というふうに分けてございます。

この基本方針・事業計画は、各地区の委員さんや地域の皆さんと共有をするというものでございまして、各地区の公民館の総会等には確認をしているというもので、今の課題を共有するという事で、さまざまな場面の活動の基本となるものでございまして、意識をしていきたいと思っております。

続きまして、本日お配りをいたしましたカンボジアスタディツアーの報告会のチラシをごらんいただきたいと思います。先ほどもLG飯田教育のお話が出ておりましたけれども、飯田市公民館では、高校生を3月の末に「カンボジアスタディツアー」ということでカンボジアに行って学んできております。

このツアーにつきましては、裏面を見ていただきますと、10月から事前学習を開始いたしまして、半年間、カンボジアへ行くまでにこの地域、カンボジアだけではなくて、飯田・南信州、この地域を学んで、それからカンボジアに行って、現地の子どもたちや現地の伝統産業を守る皆さんと、交流を深めてきて、現在、その交流から何を学んだかということの振り返りを行っております。

それで、この最終的に生徒たちがどういうものを感じて、どういう成長を見たかというようなことをこの報告会でご報告できればと思っております。6月の16日、時間がちょっと中途半端で申し訳ございませんが、12時50分からということで開始をさせていただきますので、お時間がございましたらぜひお越しをいただきごらんをいただければと思います。よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

## **（6）文化会館関係報告事項**

○教育長（代田昭久） 続きまして、文化会館関係報告事項お願いします。

棚田文化会館館長、お願いします。

◎飯田市文化会館長（棚田昭彦） 資料5番の8ページをごらんいただきたいと思います。「人形劇のまちづくり」の推進に関する取り組みについてをポイントだけちょっとご説明いたします。

まず、1番で「人形劇公演事業」でございしますが、人形劇を鑑賞できるようになること、発表の機会が得られるようになることということで進めているところでございますけれど

も、(2)のところが実施済み事業の2つ事業の関係です。(3)で、今後の予定でございますけれども、2つ目の丸ですが、「ワークショップ付き人形劇公演」ということで、今年のフェスタに出演する小中学生を対象にした公演とワークショップを行うような事業を予定しております。

その一段下でございますが、「今田人形座と飯田人形劇センター」で、半年前から現代音楽と人形浄瑠璃、今田人形を組み合わせたコラボレーションによる新しい演劇ということで、「ゆきをんな」を飯田女子短期大学のほうで6月の2日に開催する予定です。2部公演となっております。

次に、2番、「人形劇創造支援事業」でございますが、(3)の今後の予定のほうをごらんいただきたいと思っております。

一番上の丸でございますが、人形劇講座初級者コースにつきまして、現在34名で週1回程度で講座を開催しているところでございます。

1つ飛びまして、3つ目の丸でございますが、「伊那谷タイムトラベラーズ」ということで、人形劇活用事業ということで新たに今年から取り組んでいる事業でございますが、地域の題材の人形劇製作に向けての取り組みの活動ということで今年からスタートしております。

まずは、今回、「古墳」というものをテーマに将来的には人形劇を作っていこうということで、まず古墳の史跡ツアーを開始しまして、学習して、それから古来の伊那谷を描くという形で、その取り組みをする中で、将来的にはそれを人形劇につなげていこうという事業でございます。

3番でございますが、「いいだ人形劇フェスタ」につきましては、今後の予定のほうでございますが、現在、サポートスタッフの募集を開始しましたことと、2つ目の丸ですが、有料公演のチケット販売が6月23日ということで、そういったことも進めていくところでございます。

次、2ページのほうをごらんいただきますが、4番、伝統人形芝居振興事業につきましてはごらんのとおりになっております。

あと5番、人形施設の管理運営でございますが、2番の今後の予定の欄をごらんいただきたいと思っております。川本美術館のほうでございますが、現在、展示替えということで、5月31日から「戦乱に生きる家族」をテーマにした新展示を行う予定でおります。その間、三国志のメインキャラクターにつきましては、国立の東京博物館の「三国志展」というのがございまして、そちらのほうに出展されるという形になりまして、また、それが戻ってきた後、

展示することになります。

あと、一番下の丸ですが、竹田人形館の展示替えを9月上旬に予定しております。

以上、報告をさせていただきます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

### **（7）図書館関係報告事項**

○教育長（代田昭久） 続きまして、図書館関係報告事項お願いします。

瀧本中央図書館館長、お願いします。

◎飯田市立図書館副館長（瀧本明子） お願いいたします。資料No. 6をごらんください。「よむとす事業報告及び予定」ということでお願いいたします。

予定の（3）のところをごらんいただければと思いますが、図書館では、さまざまな年代の方に読書に親しんでいただく活動を行っているんですけども、その中の取り組みとして1年を通じて幾つかの講座を行っています。四角で囲んでありますものが5月から始まりました講座ですが、その中の一番上の講座、「録音図書制作ボランティア養成講座」というものも始まりました。目の不自由な方などに、本が読めないけれど読書に親しんでいただくために録音図書の制作をボランティアの方にさせていただいておりますが、この数年は字が、小さな字が読みにくくなった高齢者の方も録音図書を使いたいという要望も増えておりまして、録音図書を作っていただくボランティアの方の養成も必要な状態になっております。

それから一番下、（4）のところをごらんいただきたいと思いますが、毎年この数年行っておりますけれども、南信州おもしろ科学工房と図書館とで共催の企画を行っております。子ども、親子、一般の方すべて対象なんですけれども、「たのしく読んで、たのしく科学！」ということで、実験などによって子どもたちの科学に対する興味を引き出して、さらに本を読んだり借りていただいて、自分でもやっていただくという企画であります。

黄色いチラシを別に配布させていただきましたので、またごらんいただきたいと思います。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

### **（9）歴史研究所関係報告事項**

○教育長（代田昭久） 続きまして、「歴史研究所関係報告事項」、お願いします。

滝沢学校教育課長補佐お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） 歴史研究所、都合により退席をさせていただきましたので、私

から説明をさせていただきます。資料No. 7をごらんいただきたいと思います。

去る4月13日土曜日に、座光寺公民館におきまして「近世座光寺村の生活と組」と題しました地域史講座を開催しまして、歴史研究所の研究員が研究成果の報告を行いました。地元の皆さんを中心に50名を超える方々にご参加いただきまして、質疑も活発に行われたということで報告をさせていただきます。詳細は資料をごらんいただきたいと思います。

また、地域史講座ということで、6月15日土曜日に「豊川海軍工廠の天竜峡分工場」と題しまして講座を開きます。裏面をごらんいただきまして、6月29日、6月30日に「飯田アカデミア2019第87講座」と銘打ちまして、「戦前日本の農村社会をどうみるか」と題しました講座を開く予定でありますので、またチラシをごらんいただきましてご参加の時間がありましたらお願いしたいということでございます。

もう1点お願いします。先ほど、教育委員の皆様に「伊那谷の暮らしと住まい」という本を配布させていただきました。歴史研究所の「わが町の建築史ゼミ」の皆さんが中心となりまして3月末に刊行されたものでございますので、お時間があるときにお読みいただきたいということでございます。

報告は以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、学校教育課から歴史研究所までの報告が終わりましたけれども、委員の皆さんのほうから質疑等ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

---

## **(10) 今後の日程について**

○教育長（代田昭久） それでは続きまして、今後の日程についてお願いします。

滝沢学校教育課長補佐お願いします。

◎学校教育課課長補佐（滝沢拓洋） それでは、資料の3ページをごらんいただきたいと思います。

今後の日程につきまして、主なものについて掲載をしてございます。詳細な日程は教育委員の皆さんのみに配付してございますのでごらんいただきたいと思います。

1点、5月31日の関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会の件でお願いがございます。参加される教育委員の皆さんにはお手元に配布をさせていただきましたが、集合出発時間としまして5月31日金曜日午前9時半を予定しております。集合場所につきましては、市役

所A棟、B棟の間のエントランス付近ということで、学校訪問に行くときの集合場所ということにさせていただきます。9時半に出発をしまして、昼食をとり、午後から特別公演、総会、研修会を行いまして午後7時に帰庁予定でございます。

なお、留意点ということで、事務局のほうからクールビズの実施、それから、禁煙ということをお願いしたいというような話がありましたので申し添えておきます。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ちなみに私、この5月31日の関東甲信越静の研修会のほうには出席できませんので、よろしく願いいたします。

今、日程について、何かご質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、会議を通して何かご意見、また、ご発言があればお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

---

## 日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） それでは、日程第10。

以上をもちまして、令和元年5月定例会を閉じさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

---

閉 会 午後4時45分